



『魔法先生ネギま！もうひとつの世界』
第三話『新・師弟コンビ誕生』

原作 赤松健

〔登場キャラクター〕

ネギ・スプリングフィールド

ジャック・ラカン

長谷川千雨

相坂さよ

朝倉和美

明石裕奈

和泉亜子（回想で登場）

大河内アキラ

神楽坂明日菜

絡繰茶々丸

近衛木乃香（回想で登場・セリフなし）

桜咲刹那

佐々木まき絵

村上夏美

エヴァンジェリン（回想で登場・セリフなし）

犬上小太郎

カゲタロウ

ナギ・スプリングフィールド（回想で登場・セリフなし）

フェイト・アーウェルンクス（回想で登場・セリフなし）

レポーター

トラゴロー



□アバンタイトル(テンペルラ・オアシスのほとりにあるレストラン)

大勢の客で賑わう店内。まき絵と裕奈は忙しく働いている。客が景気よくまき絵達に声を掛ける。

トラコロー「よお、マキ絵ちゃん。今日も元気だねー」

まき絵・裕奈、トレイを持って客たちのものに行く。

トラコロー「でも、おっぱい相変わらず小せーなー。ちゃんと毎日揉んでっかー?」

客たちの笑い声。

まき絵「もー、やだー。トラコローさんったら」

まき絵、笑顔のままトレイでトラコローの脳天を一撃。

トラコロー「ユーナちゃんは相変わらずでっけーなー」

トラコローのからかいに対し、半ばヤケクソ気味にスマイルの裕奈。

裕奈「この世界にはセクハラって言葉はないの!?!」

突然、ハッとした表情をするまき絵。前方を指をさしながら、

まき絵「アレ見て!!アレ!!」

裕奈「へ」

店内、宙に映し出された映像(以下TV)に、大人ネギとレポーターの姿が映っている。レポーター、正面向いてあいさつ。

レポーター「では、デビュー以来13戦全勝の快拳を成し遂げた、ナギさんにインタビューです」

横にいる大人ネギに向かって、

レポーター「こんにちはー。ナギさん、今日は全国生中継ですよ」

笑顔で画面に向かって呼びかけるネギ。

大人ネギ「まき絵さん、ゆーなさん。見てますか?僕です。ナギです。あなた達の先生の彼も

ちゃんと一緒にいますよー!」

裕奈「え…あれって」

まき絵「うんー!」

驚いた表情の裕奈と、嬉しそうにガッツポーズを決めるまき絵。

大人ネギ「ここは、交通の便や色々アレなので:そうですね。一か月後、オスティアで開かれる大

会で会いましょう!!運動部の2人ももちろん来ますよ」

TVの画面にアップで映るネギ。

大人ネギ「学園への帰り道も心配しないでください。大会で会えるのを楽しみにしていますねー」

まき絵、裕奈、TVを見上げたまま頬を紅潮させる。

そして、顔を見合せ、2人で手を取り合い、

裕奈「か:帰れるって——ッ!?!」

まき絵「ネギ君も亜子もアキラも無事だっってえー!!」

大喜びするまき絵、ふと心配そうに

まき絵「他のみんなも無事なのかなー」

客達の歓声とともに、氣勢を上げる裕奈。

裕奈「とにかく旅費稼がなきゃ!!ガンガン働くツスよおー!!」



□グラフィクス全景(夜)

T「同刻 エリジウム大陸 自由都市グラフィクス」

□ドルネゴスの闘技場全景(夜)

上空から臨んだ闘技場。観客たちの歓声が聞こえる。

□ドルネゴスの闘技場(夜)

引き続き、インタビュウを受けるネギ。

レポーター「ナギさんは、かの『サウンドマスター』と同姓同名ですが、もしや血縁者？

……てゆーかソックリデス!？」

大人ナギ「いやー他人の空似でしょう。僕は彼とは何の関係もありませんが——この最強の男の

名に恥じぬ戦いをしてみせましょう」

どよめく観客。

大人ネギ「強敵を待ちます!! ガンガンかかって来てください!!」

湧き上がる歓声。

レポーター「以上、注目のルーキー、勝者ナギ・スプリングフィールドでしたー」

□OP

□サブタイトル

□闘技場内・階段の踊り場(夜)

大人ネギ・大人小太郎・和美・さよ・ちび茶々丸、ちび千雨が思い思いに階段に座ったり、壁によりかかっている。

大人ネギ「さっきのメッセージ…まき絵さんや他のみんなに届くでしょうか」

和美「ネギ君のお父さんのネームバリューのおかげで、メディアの露出は高いハズだよ。あとは…

みんなを信じて、幸運を祈るしかないね」

ちび千雨「じゃ、いざでちっとおさらいしとくか。朝倉」

和美「うむ。集めた情報を総合すると…」

22巻29ページの魔法世界(ムンドウス・マジクス)と旧世界(ムンドウス・ウェトウス)の説明図をインサート。

和美OFF「やっぱ、あの事件でゲートポートは全て壊されたみたいだね。復旧には早くても

2、3年はかかる」

目線を交わすちび千雨と和美。

ちび千雨「最悪の状況って奴だな…だが!」

オスティアの場所を示す地図とオスティアのようなすを背景に説明する和美。

肩にはさよ人形が乗っている。



和美「廃都オスティア。二十数年前の戦争で廃墟になったその街に、今は使われていないゲートがある」

踊り場にたたずむ小太郎と茶々丸。

大人小太郎「フム……つまり俺達が帰るには、その都に行かなアカンちゅーことやな」

ちび茶々丸「(うなずいて)ハイ。我々にとっては大変幸運にも一か月後……」

全国決勝のイメージ風景(22巻31ページ)。

ちび茶々丸OFF「その街で拳闘大会の全国決勝が開催されます。重要なのは……」

和美、背後にある踊り場の柱に貼られた決勝大会のポスターを指して、

和美「そう!!この全国決勝の賞金こそが、100万ドフラクマ!!」

大人ネギ「この賞金があれば、奴隷になった亜子さんたちを取り戻せます」

人形さよから抜け出たさよのアップ。

さよ「つまり……このお祭りで問題が全て解決できちゃうかも……って」トですな」

小太郎、ガッツポーズしながら

大人小太郎「全て解決……か、えーな!!風がこっち向いてきたみたいやんか」

和美「でも、そのためにはネギ君と」タロ君が大会への参加資格を勝ち取らなきゃいけないんだ

けど……自信は？」

からかうようにネギを見つめる和美。

大人小太郎と大人ネギは自信満々に、

大人小太郎「任せとき」

大人ネギ「こんな所でやられてたら話になりませんよ」

□グラニクス・街中(翌日)

賑やかに行き交う人々の中をフードを目深にかがぶって歩くネギ。

大人ネギM「——とは言ったものの、不安要素はある」

ネギ、暗く思いつめた表情で、

大人ネギM「フェイト・アーウェルックス:」

ネギ、フェイト(21巻10ページのシーン)を思い出す。

ネギ、悔しそうな表情で空を仰いで、

大人ネギM「今の僕には勝てない!!あいつに勝てる力がなければ、この計画はダメだ。けど、ど

うすれば勝てる!?何が足りないんだ。何か……:」

x x x

回想。

闘技場の階段を下りる、ネギと小太郎。

大人小太郎「アホっぽさ?ああー確かにお前に足りへんとか言うたな」

大人ネギ「うん、あれって……」

大人小太郎「ホレ、怖い方のお師匠が言っつたやろ」



エヴァがにやりと笑うイメージをインサート。

大人小太郎「お前よりもアスナ姉ちゃんのが、お前の親父に似とるって」

大人ネギ「う…うん」

不敵に笑うナギと明日菜のイメージ。

大人小太郎OFF「この2人の共通点、つまりアホっぽさや」

驚くネギ。

大人ネギ「ええーっ？そつなの？」

大人小太郎「ただの俺の想像で思いつきやって。…ただアスナ姉ちゃんな。確かにお前にはない『強くなるために必要なモン』持つとるんかもしれへんで」

× × ×

回想から戻って人混みの中で立ちつくすネギ。

大人ネギM「うろろろろん、なるほど。アスナさんのあの感じがー」

納得したようにうなずくネギ。

大人ネギM「でも、イキナリ僕がアスナさんみたくなるのも無理だし…」

ネギ、ため息をついて歩き出す。

ネギ「僕に足りないもの…：やっぱり…：…必殺技…：とかかなー」

ネギ、少し恥ずかしそうにつぶやく。

ラカン「必殺技が何だつて？」

露天で酒を飲むラカンがネギに声を掛ける。フードをかぶっているため表情は見えにくい。

ネギ、自分の恥ずかしいセリフを聞かれ、顔を真っ赤にしてあわてふためく。

その拍子にフードが外れてしまう。

ラカン「男なら必殺技の1つや2つ、持つてるのが当然だ」

ネギ「あ、あなたは…？」

ラカン、にやりと笑って

ラカン「今は自分の頭上を心配しな」

どこからともなく襲いかかってくる影の刃。気配を察したネギが上を見上げる。

大人ネギ「ハッ」

わずかに体をずらすと、頭上から影の刃が地面につき立つ。顔すれすれにある影の刃。

ネギの頬がパツと裂けて血が滴る。

大人ネギ「な…：」

影の刃がネギの背後の方向に戻っていくのを目で追いながら、ネギが振り返る。

大人ネギ「くっ…」

町の人々のどよめきの中、両手に影の刃を巻きつけたカゲタロウがネギに向かって歩いてくる。

大人ネギ「誰だ!？」

カゲタロウ「…お前の呼びかけに応じ、参上した。ナギ・スプリングフィールド。私はボスポラ



スのカゲタロウ。貴様に「尋常の勝負を申し込む」

淡々と返事をかえずカゲタロウ。

ネギ、カゲタロウを見上げながら

大人ネギ「待ってください、ここでは街に被害が…!」

と戦闘を回避しようとするが、カゲタロウは問答無用で攻撃。カゲタロウの影の刃の一撃を受けて吹き飛ばされるネギ。

影の刃が服の右脇腹を貫き、建物に縫い止められる格好に。

大人ネギ「ぐっ…」

影の刃を砕いて脱出するネギ。

大人ネギM「危なかった…今の…躊躇なく急所を狙って…」

カゲタロウの新たな影の刃が、建物ごとネギを切り裂こうとしているのに気づき、慌てて呪文を唱える。

大人ネギ「!! ラス・テル・マ・スキル・マジステル、

風精召喚(エウォーカーティオ・ウォルキュアールム)」

ネギの詠唱と同時に、影の刃が引き絞られ、建物がバラバラに。間一髪逃れたネギは、数個離れた建物に飛びすさる。

大人ネギM「凄まじい手練だ、いや何よりもこの人は…」

ネギを襲う3本の影の刃。

大人ネギM「僕を、本気で!!」

着地したネギの首、心臓、腹に3本の影の刃が突き刺さる。影の刃がネギに突き刺さった瞬間、ローブを残してネギの身体が破裂して消える。

カゲタロウ「(驚いて)デロイ!」

カゲタロウの背後にローブを脱いだネギが現われ、不意を撃とうとするが、その前に影の刃が突き立つ。

大人ネギ「(息を飲んで)!!」

前髪を一房切られ、ぞっとするネギ。

大人ネギM「本物の命を賭けた決闘…本物の殺し合いだ」

カゲタロウ、ネギの方を振り返って

カゲタロウ「三撃以上もつ人間は、久しぶりだ。良い。そうでなくては」

再び背後に影の刃を放つカゲタロウ。ネギ、残像を残して、瞬時にカゲタロウから距離をとる。

大人ネギM「反撃の糸口がつかめない。まるでマスターと戦っているような。いやマスターとの修

業がなければ一瞬で終わってた(ここから声に出して)マの人…」

ネギ、カゲタロウの影の刃5本を五重の魔法障壁で食い止めようとする。

大人ネギM「本物だ!!」

障壁を貫通した影の刃の一本が、ネギの左肩を切り裂く。

大人ネギ「ぐっ」

と声を上げるネギ。

大人ネギM 「五重の魔法障壁を…」

強力な障壁貫通力を付与された、変幻自在・高速の物理攻撃…」

大人ネギ、吹っ飛ばされながら落下。

大人ネギM 「強い…!!」

立ちこめる煙の中、ゆっくりと立ち上がるネギ。

大人ネギM 「強敵…：本物…：」

ネギ、冷汗を浮かべながらも、戦いに高揚して薄く笑みを浮かべる。

大人ネギ 「あああっ」

裂帛の気合とともに魔力を放出。

カゲタロウM 「規定外の凄まじい魔力…：!!」

カゲタロウ、ネギに数本の影の刃を放つ。ネギは、それをかわし、いなすと、影の刃を足場にカゲタロウに向かって跳躍。

カゲタロウ、左手から大量の影の刃を放って迎え撃つ。

カゲタロウ 「百の影槍(ケントウム・ランケアエ・ウンフラエ)!!」

大人ネギ 「解放(エーミッタム)!!」

断罪の剣(インベルフェクトゥス・エンシス)・未完成(エクセクエンス)」

ネギ、向かってくる影の刃を、左手に込めた魔力を解き放って振り払い、粉々にする。

カゲタロウ 「(驚いて)!!」

大人ネギ 「解放(エーミッタム)!!」

さらにネギ、カゲタロウに右手に込めた魔力を解き放ち、殴りかかる。

大人ネギM 「もらった!!」

ネギの一撃はカゲタロウの左目付近に当たる寸前にマントで防がれ、影の刃で右腕を切断されるが、それでも威力を殺しきれず、仮面の左目付近にヒビが入る。

カゲタロウ 「!!」

胸を薙ぎ払おうとする追撃の影の刃を、間一髪左掌で止めるネギ。

大人ネギ 「!!」

カゲタロウ、左目から煙を出しながら、

カゲタロウ 「ぐ…：惜しかったな」

空に舞う棒状の物体。地面に落ちた時、ネギの右手と明らかになる。

カゲタロウ 「私の勝ちだ」

ネギ、顔をしかめながら、少し後ろに飛びすさり、腰を低めに構え、

大人ネギ 「ぐ…：まだ…：」

一気にカゲタロウに向けて左拳を突き出す。

大人ネギ 「まだ左がある!! 解放(エーミッタム)!!」

カゲタロウ 「(驚いて)!! 三重遅延呪文(トリプルディレイスヘル)!!」

驚きながらも影の刃でネギを迎え撃とうとするカゲタロウ。両者が激突する瞬間に人影が割って入り、2人の手をつかんで止める。

ラカン 「くっく、なかなかイイ見世物だったが、この勝負、俺に預からせろや」

ラカンの姿に驚愕する、カゲタロウとネギ。カゲタロウは、ラカンにつかまれた腕をふりほどき、後ろに下がる。

カゲタロウ 「な……!? 貴様……!! 『紅き翼』の!?」

悠然と立つラカン。

カゲタロウOFF 「千の刃のラカン……!!」

切られた右腕を抑え、苦しそうなネギ。

大人ネギ 「(驚いて)！」

京都のネギの別荘で観た写真(6巻188ページ)を思い出すネギ。

大人ネギM 「この人が……父さんの仲間の……?」

カゲタロウ 「バカな：紅き翼は：詠春とタカミチ以外のメンバーは、行方知れずのハズ……!!」
と言いながら、カゲタロウ身構える。

ラカン 「アラるぶらう? 何だそりゃ、知らねえな。

俺がそのアラ何とかの面子なら、どうだっつてんだ?」

カゲタロウ 「フ：ならば私は、誰とも知れぬソコの若造などと、戦う必要もない」

ネギ、傷の痛みとカゲタロウの言葉に顔をゆがめながら、

大人ネギ 「ぐ……」

カゲタロウ 「願ってもないことだ!!」

カゲタロウ、一本の影の刃をラカンの眉間めがけて放つ。ラカンは、人差し指と中指だけで簡単に影の刃を受け止める。

カゲタロウ 「!ぬおっ!!」

カゲタロウ、大量の影の刃をラカンに向かって放つ。

ラカン 「へ……」

ラカン、どこからともなくパクティオカードを取り出し右手に持って、

ラカン 「来たれ(アデアット)！」

カードからカゲタロウと同じ形状の光の刃が無数に現われる。

大人ネギM 「アーティファクト！」

ラカン 「ぬんっ」

と言う、掛け声とともに光の刃がカゲタロウの影の刃と激突。ぶつかり合う互いの刃が次々と碎けていく。

カゲタロウ 「ぐ……理不尽なっ」

それが如何なる武器にも変幻自在・無敵無類の宝具と名高き……」

ラカン、再びパクティオカードを手にしながら、

ラカン 「おうよ。今日は見料特別サービス。これが：アーティファクト、

『千の顔を持つ英雄(ホ・ヘーロス・メタ・キリーオン・プロソーポーン)』だ!!」

ラカンの周りに無数の剣や槍が出現。

カゲタロウ 「むっっ」



カゲタロウ、槍状の影の刃を構えながら、後ろにとびすさる。
カゲタロウ「!!」

カゲタロウの頭上から、ラカンの無数の剣が降り注ぎ、地面に突き刺さる。

ラカン、大剣の柄を握り、高くジャンプしながら、

ラカン「よっ。必殺：斬艦剣(ザンカンケン)!!」

巨大化した剣をカゲタロウに向かって投げつける。

カゲタロウ「ぐおっ」

ネギ、衝撃の余波に顔を覆いながら、

ネギ「く…スゴイ…!!」

ラカン、煙が立ち込める地面に降り立ち、ネギの方に視線をやって、

ラカン「…力が欲しいんだろ、ぼーず。そのケガ治したら俺んと」来いよ。

望みのモノを、手に入れられるかもだぜ?」

大人ネギ「カ…」

とつぶやきながら、ネギは気を失ってしまい、ブラックアウト。

□グラニクス・病院屋上(3日後の朝)

腕の動きを確認しているネギ。

大人ネギ「大丈夫そうだな」

後ろから投げられたパイナップルがネギの頭に直撃する。

大人ネギ「あた」

果物を投げた姿勢のちび千雨と、果物が入ったカゴを持ったちび茶々丸が、ネギをにらみ

つけている。

大人ネギ「千雨さ、げぶっ」

鳩尾に千雨のパンチが入り、顔をしかめるネギ。

大人ネギ「あいつ、き、傷ッ…」

ネギ、ちび茶々丸が左手拳をネギに向けているのに気づく。

大人ネギ「え…」

茶々丸の声とともに、ロケットパンチが炸裂。ネギの顔にヒットする。

ちび茶々丸「Targer look on. Fire!」

ネギ、顔を押しえながら、

大人ネギ「あ、あの…」

ネギの台詞を遮るよう「

ちび千雨「神楽坂なら、殴ってただらうっからな…：代わりだ。ったく無茶しやがって。治ったから

いいよなもんを」

大人ネギ「…!(ハッとして)ヌミマセン…千雨さん、茶々丸さん…

ご心配おかけしてしまっ…」

ちび千雨、照れを隠すよう「



ちび千雨 「ふん…誰が心配したって…ってめえとは、どっかで一度腹割って話したいほうが良さそうだな。いいか…」

そこに、手にした紙を振りながら、小太郎が駆け寄ってくる。

大人小太郎 「おーい。ニュースや、ニュース!! ビッグニュースや!!」

小太郎の方を向くネギたち。

大人小太郎 「俺達の仲間から連絡あったで!!」

大人ネギ 「え!? 本当!?!」

ちび千雨 「生放送から4日で収穫があるとはな、誰だ!?!」

小太郎が手にした手紙をアップ。

大人小太郎 「多分…刹那姉ちゃんたちや!!」

□山に囲まれた湖

周囲に人気はなく、静かな湖面。

□湖のそばにある小さな滝

裸の刹那、滝に打たれながら、羽の毛づくろいをしている。

そこにやってくる明日菜。

明日菜 「あ、水浴びいいよね。私もやろっかなー」

刹那 「えっ」

いきなり服を脱ぎ出す明日菜。

刹那 「って、何、脱いでるんですか——!?!」

明日菜 「脱がなきゃ水浴びできないじゃん。羽の毛づくろいしてたの? 手伝ったげよっか」

刹那、羽と手で身体を隠して恥ずかしがるが、明日菜は構わず全裸に。

そして刹那に抱きつき、押し倒すような形で滝壺へ。

明日菜 「それーっ」

刹那 「きゃー!?!」

x x x

滝のそばの平たい岩の上に、全裸の明日菜と刹那が腰かけて水浴びしている。

刹那、顔を赤らめながら、自分の羽の毛づくろいをする明日菜に向かい、

刹那 「あ…「」はやっぱり何か変では…っ」

明日菜 「何でっ…よく寮で背中洗ったりしてるじゃん」

刹那、もじもじしながら、

刹那 「いや、それとハネの手入れはその…ですね」

明日菜 「何で——っ刹那さんのハネいじるの好きだけどっ」

明日菜、構わず刹那の羽の毛づくろいを続ける。

刹那 「そ、その。今日は随分明るいんですけどねアスナさん。

やっぱり街のテレビでネギ先生の無事がわかったからでっ」



明日菜、思わず手を止めて、

明日菜「え」

明日菜、顔を赤らめて慌てたように、

明日菜「ち、違うわよ。あいっただけじゃなく他のみんなも無事だったから……」

刹那「合流した時のアスナさんの落ち込みはスゴかったですからね」

明日菜「そ、それを言ったら刹那さんこそ、このかことで世界の終わりみたく取り乱してさ」

刹那「!」

刹那「このか……お嬢様……」

うつむいてわななく刹那。

明日菜「あ(しまった)」

刹那「お嬢様——ッ!!いい今頃どいでどうされているのか」

木乃香のイメージをインサート。

刹那激しく泣き出す。

明日菜「このかなら大丈夫。ああ見えて私達よりずっとしっかりしてるし、生活力もあんだから」

と「言いながら、明日菜は泣きじゃくる刹那の肩に手を置いて落ち着かせる。

明日菜「もうグダグダ言わずにやる」トやるって決めたでしょ!」

明日菜、滝つぼの方へ向かう。

刹那「ハ、ハイ……」

明日菜、滝に打たれながら、

明日菜「他のみんなもぎつと大丈夫」

刹那「アスナさん……」

明日菜「一ヶ月後にはみんな無事に再会して、今年の夏休みはスゴかったって^{チャオハオス}超包子で打ち上げ

してるよ」

□グラフィクス空港・全景

上空から臨んだ空港のターミナル。空鯨が飛び交っている。

□グラフィクス空港・ロビー

地図を見ている、大人ネギたち。

22巻91ページの世界地図をインサート。

大人小太郎「これが搜索ルートか、ホンマに世界一周やなあ」

ちび茶々丸「人口の密集地は大方カバーしています」

アキラ「これなら全員見つけられそうだね……」

夏美「でもさー、空の上から位置を確認するだけじゃ、意味くない? 朝倉」

ちび和美「フフフ、そこでご登場となるのが本作戦の目玉……」

ちび朝倉、仮契約カードを皆に見せる。

ちび千雨「(驚いて)バクティオーカード!?!」



ちび朝倉「ふふふ…」

ちび朝倉、にやりと笑う。

22巻92ページ「渡鴉の人見」のイラスト。

ちび和美OFF「私、朝倉和美のアーティファクトは「渡鴉の人見」(オクルス・コルウィヌス)!!

その名のとおりのスパイアイテム!最大6体のスパイゴーレムを超々遠距離

まで遠隔操作可能!!」

ちび和美、一同に向かって得意げに

ちび和美「発見した仲間!、これを向かわせれば状況は一目瞭然って訳だね」

ちび千雨「それはいいが、ためえらいつバクティオーしたんだ!?聞いてねえぞ」

ちび和美「ここをどこだと思ってるのさ。仮契約(バクティオー)雇ってのがあるんだよ」

ちび和美、一枚の写真を取り出して、

ちび和美「それで、まあこれが私の…」

ちび和美、ネギとのキス写真を皆に見せる。

ちび和美「ファーストキス記念写真さー」

アキラ・夏美「キャー!?!」

ちび千雨「ためえがファーストキスな訳ねーだろっ」

ちび和美「(白々しく)さーでどーかな? ふふふネギ君赤くなって震えてて初々しかったな」

大人ネギ「朝倉さんっ」

ちび千雨「その少女顔で言うなっ。きめえっ」

□グラニクス空港・屋上

飛んでいく空鯨を見送るネギ、小太郎、千雨。ネギは何か思いつめたような表情。

大人小太郎「行ったな」

ちび千雨「一日でも早く、全員の居所が判明するといいんだがな」

大人小太郎「千雨姉ちゃんが、行かへんのは 旅費のせいか」

ちび千雨「それもあるが…私はここに留まって情報収集だな。明石たちはリーダーじゃ探知できないし」

千雨、ネギのほうをそつと見やっつて、

ちび千雨M「それに…」

思いつめた様子の子のネギ。

大人ネギ「……………(何かを決意したように)あのっ…千雨さん、コタロー君!」

ちび千雨「ああ」

大人小太郎「わかっとなるわ」

2人の反応に戸惑ったネギ。

大人小太郎「その何とかゆーおっさんに稽古つけてもらいに行くんやぶっ?」

大人ネギ「(驚いて)ー!」

大人コタロー「構入んで、行ってこいや。出場権は任せとけ」



ネギ、申し訳なさをうつな顔で、

大人ネギ 「ゴ、ゴタロー君……ごめん、あの……僕、こめ、ぼ!？」

ネギの頬を一発殴り、首もとをつかむ小太郎。

大人小太郎 「男が一度決めた」ト、グダグダ言っなや。ホケネギツ!!」

大人ネギ 「で、でもっ。みんなの救出には、直接関係ないし……」

大人小太郎 「アホオツ」

小太郎、ネギの首をつかんだまま、

大人小太郎 「やりたいなら、やったらええねん。親父の仲間なんやろ? そのおっさん。どうせなら

最強無敵の力でも手に入れてこいや」

小太郎、ネギの首から手を離す。

大人ネギ 「ゴタロー君……」

ネギ、小太郎と見つめ合い、

大人ネギ 「……」

大人小太郎 「へっ」

ネギと小太郎笑って、拳を打ち合う。衝撃波が出て、周囲の人が驚く中、

大人ネギ 「がんばるよっ!!」

大人小太郎 「お互いにな!!」

千雨、ネギを見つめながら、

ちび千雨M 「それに、こいつは誰かが見てないとダメだしな。神楽坂の代わりに私がついて行って

やるか……」

□荒野

子供の姿に戻ったネギと中学生に戻った千雨が歩いている。千雨だけ疲れたようす。ネギが
何かに気づいて進行方向を指さす。

ネギ 「あ、あれを!」

ネギが指差す先には、高くそびえる塔と小さな森が見える。

千雨 「オアシスか?」

□オアシス全景

オアシスに到着したネギと千雨。周囲を囲む遺跡の一部に立ち、眼前に広がる水面とそび
えたつ塔に目を奪われる。

千雨 「わあ……なんかの遺跡だな……」

ネギ 「(息をのんで)……」

□オアシス・泉のほとり

ラカンを捜すネギと千雨。

ネギ「ラカンさん。ラカンさん」

千雨「お、アレじゃねえか？」

ネギ「あ」

ラカンを発見するネギと千雨。

ラカンは足首まで泉に入った状態で、体からはオーラのようなのが漂っている。泉のほとりには黒板が置いてある。

ネギと千雨、少し離れたところでラカンを見ている。

ネギ「何してるんでしょう。修業かな…」

気合いをためたラカン、カット目を見開き、ポーズを決めながら叫ぶ。

ラカン「霸王(はおう)!!」

ネギと千雨。ラカンの突然の動きにびっくりする。

ネギ「!?!」

ラカン「炎(えん)・熱(ねつ)・轟(ごう)竜(りゅう)、咆哮(ほうこう)、爆裂閃光魔神斬空羅漢拳!!」

ラカンは、次々とポーズしながら、技名を叫んで右ストレートを放つ。

水面にすさまじい衝撃波が放たれ、ラカンの後ろにいるネギや千雨にも及ぶ。

空に舞い散った水が、雨のように降り注ぐ。

啞然とするネギと千雨。

ラカン、真剣に悩みながら、

ラカン「ぐっ…ダメだっ…技名が長すぎる。語呂も悪いし…」

ラカン、改めて気をためながら、

ラカンM「ちいっ…考え過ぎて煮詰まってきたか。やはり、ここはもっとシンプルに、基本に

立ち返って名前を入れて…」

ラカン、技名とともに右ストレート。

ラカン「うーうーん…葱拳!!」

水面にすさまじい衝撃波が走るが、名前が気に入らず、頭を抱えるラカン。

ラカン「ぐっ…ダメだ。やっぱり語呂が悪い。決めポーズ取ってる暇もねえし」

ラカンは体にオーラをまとったまま、小難しい漢字で埋められている黒板の周りをうろつく。

ラカン「ダメだダメだ。こんなネーミングじゃ、とても俺印の必殺技は名乗れねえぜっ!! くそっ、

もう締め切りだ!! どうする!? だがっ燃えてきたぜ!!」

腕組をしながら考えるラカン。

ラカン「待てよ…漢字にこだわりすぎたのがマスかったか…!?

ぬっぬっ。単なる右ストレートってのも味気ねえかな。

もっとな斬新な…ホラ、あんだろ。目から何か出るとか、全身からとか…」

ラカン、ハッと何か思いついたように、

ラカン「全身から何か出る…っそれだよ」



ラカン、再び技名を叫びながらポージングしていく。

ラカン「エターナル」

ラカン、両手を広げて全身から閃光を発する。

ラカン「ネギ：ファイバー!!」

ラカンの一撃で、遠くの小山が一瞬で吹き飛ばす。

ネギ「……!!」

ラカンの無茶苦茶ぶりに、茫然とするネギ。ラカンが放った技の衝撃で髪が逆立っている。

ラカン、息を切らしながら、煙を立ててえぐれてしまった山を満足そうに見て、

ラカン「お：おおお：テキトーに全身から光線を出してみたが：まさかこれ程の威力とは……」

ラカン、ガッツポーズを決めて、

ラカン「完成だ!! 奴の息子、ネギの新・必殺技がな!!」

茂みに隠れている千雨とネギ。

ネギM「ええ——!? 僕の!? 無理ッ」

千雨M「ダメだこいつ……」

千雨、笑顔のクウネルを思い浮かべ、

千雨「てめえの親父の仲間は、ヘンタイしかいねえのかよ。アレはやめとこつ、先生。親父の情報

だけ聞いたら、とつとと帰……先生?」

ネギM「でもアホっぽい人だ……!!」

真顔で考えこむネギに、千雨は不安げ。

千雨「オイッ!?」

右手の拳を握り、決心したようすのネギ。

ネギ「今、僕が師事するとしたら、この人しかない気がします!!」

千雨、焦ったように

千雨「ちょ……待てバカ。早まるなっ」

ロープを脱ぎ、茂みから姿を見せるネギ。千雨も慌てて後を追う。

ネギ「ラカンさん」

ラカン、黒板に「新必殺技『エターナル・ネギファイバー』やり方：全身から光線を気合いで

出す」などと書きながら

ラカン「おおつ、来たかほーず!!」

ハッハ。丁度いい所に来たぜ!! お前用の必殺技が完成した所だ!

ネギ「(戸惑い気味に)い、いえ。それよりも……」

ネギ、決意を示すようにはつきりと、

ネギ「僕に……戦い方を教えてください!! 時間はないんですが：強くなりたいんです!!」

ラカン「……フ、いいぜ。けど：俺の修業はキツイかもだぜ」

ネギ、まっすぐにラカンを見ながら、

ネギ「構いません。どんな修業にも耐えてみせます!!」

× × ×



ラカン、自分の腹を拳で叩き、

ラカン「よおしっ。修業の前にお前の力を見せてもらう。全力で俺の腹を撃って来い!!」

ネギ、構えながらもためらって

ネギ「ハ、ハイッ。で、でも…」

ラカン「いいから撃て!! 情けないパンチなら修業はなしだぞ」

ネギ「ハ・ハイッ。戦いの歌(カントウス・ペラークス)：最大出力(ウイス・マークシマ)!!」

ラカン「違う!!」

ネギ「えっ…」

ラカン「お前、もつとすごい技使えるハズだろう? ソレの最大出力で撃って来い」

ネギ「(ためらって)で、でも…」

ラカン「いいかほーず。まあ俺がお前の親父より強いとは言わねえが、少なくとも同レベルにいた

ことは確かだ」

仁王立ちのラカン。その背後に重なるように、ナギのイメージ。

ラカン「で：お前の憧れの親父ってのは、お前みたいな『ヨッ』が、ちよつと思いついた程度の中途

半端なオリジナル技でくたばるような奴だと思っつか?」

目を見開くネギ。

ネギ「!!」

ラカン「最強の魔法使いつてのは、そんなもんか。どうだ、ほーず。試してみるよ」

ネギ、ラカンの言葉に挑発され、呪文を唱えるネギ。

ネギ「あああっ!! フス・テル・マ・スキル・マギステル!!」

光の精霊101柱(ケントゥウム・エト・ウーヌス・スピリトゥス・ルーキス)

集い来りて(コエウンテース) 敵を射て(イニミクム・サギテント)!!

魔法の射手(サギタ・マギカ) 集束・光の101矢(コンウェルゲンティア・ルークム)!!

ネギの右拳に光の矢が収束していく。

ラカンM「おおっ。いい練り込みの矢だな」

ネギ、ラカンに向かって大きく踏み込む。

ネギM「拳に乗せられるサギタ・マギカはこれが限界：父さん。これが、今の僕の全力です!!」

ラカンの腹に向かって飛びこむように拳を打ち込む。

ネギ「桜華崩拳!!」

オアシス全体に広がる衝撃波。

千雨、衝撃の余波を受け、顔を手で覆う。

千雨「わぶっ」

衝撃で水が舞い上がり、雨のように降りそそぐ。ネギは心配そうな表情で、

ネギ「ラ、ラカンさん……」

次第に水煙が晴れ、ネギの前に立つラカンの姿が見えてくる。

ネギ「む、無傷!? スゴイ」

その瞬間、血を吐くラカン。

ラカン「げぼあっ」



ネギ「(ビククリして)ラカンさん!」

ラカン、怒りながらネギに強烈なアップパーを食らわす。空に吹っ飛んでいくネギ。

ラカン「痛えな、コンチクショー!」

ネギ「まろんほっ」

ラカンの理不尽さに吹く千雨。

千雨M「ええーっ!」

我に返ったラカン、天国に行きかけているネギを揺さぶる。

ラカン「ああ、やべっ。大丈夫かほーず」

千雨M「大丈夫か?こいつを師匠にして:」

□オアシス・棧橋の上

オアシスの棧橋の上、黒板やパソル、テーブルや座布団がある。

ラカン「何い!?あの、エヴァンジェリンが師匠だって!」

ネギ「ハ、ハイ」

棧橋の上に立つラカンとネギ、テーブルのそばの座布団に座っている千雨。

ラカン「くく:ハッハッハ。そりゃ傑作だ!!」

あいつがなあ、道理で妙な鍛えられ方をしてると思っただぜ」

愉快そうに笑うラカン。

ネギ「み、妙な?」

ラカン「いや、大体わかった。合格だぜ!!」

ネギ「ハイッ」

ラカン「で:だが、何で強くなりたいんだ ほーず?」

ネギ「(思いがけない質問に驚く)！」

ラカン「誰か倒したい相手でもいるんじゃないかねえのか?」

ラカンの指摘にハッとするネギ。

ネギ「!」

ネギ、フェイトにゲートポートで受けた傷がズキズキと痛みだす。

ネギ「:…:それは:」

ラカン「凶星か?それだよ。目標はそいう明快なやつがいい。誰だ?そいつはネギ」

× × ×

ゲートポートでのフェイトのイメージ(#1より)

ネギ「:…:フェイト・アーウェルックスという謎の少年です。ゲートポートを襲った:」

× × ×

ラカン「!?(驚いて)アーウェルックス:

そりゃまた、懐かしい名前だな:…:(マ)ことからMでなるほど、そいうことか:」

ネギ「知ってるんですか!」

ラカン「まあ:な」



ラカン、黒板の方に移動しながら、

ラカン「だがまあ、ほーずの相手が俺の想像どおりなら……厄介だな。どれ表にしてやろう」

と云って、ラカン、黒板を縦に置く。

千雨「表？」

ラカン、チヨークで黒板に表を書く。

ラカン「おう。強さ表ってやつだな。魔法も気も使えないチサメ嬢ちゃんを基準にしてみるとだな、

旧世界の現用兵器をこれくらいとすと、ほーずはこの辺…ほんでカゲタロウはこの辺

で…タカミチはこの辺だけど、あいつ中々本気出さねえからな…」

× × ×

黒板に書かれた強さ表。

ラカンOFF 「こんなモンか」

千雨M 「頭悪そつな表だなー…」

ラカンOFF 「ま、あくまで目安だ。大体の物理的的力量差と思え」

× × ×

ラカン、さらに黒板に何か書きながら、

ラカン「まあ、勝負は相性。時の運とはいえ力量差が大きくなれば、勝ちも薄くなるが道理。

お前の相手、謎の少年の力量は、この辺りだ」

と云って、ラカン3000のところに印を入れる。

フエイトの位置に驚くネギと千雨。

ネギ「ー！」

千雨M「これは」

ネギ、青ざめてうつ向きながら、

ネギ「そんな……これほどの差があるんじゃない、いくら修業しても」

ラカン「まあ、マトモにやってたんじゃない無理だな」

ネギ「く……」

ラカン「早合点するな。マトモじゃ無理だがマトモじゃない道ならなくてもない」

ネギ「ホ、ホントですか!？」

ラカン「ああ、闇の魔法(マギア・エレベア)だ」

ニヤリと笑うラカン……。

※実際のアニメに収録されている音声は
シナリオと異なる場合がございます。